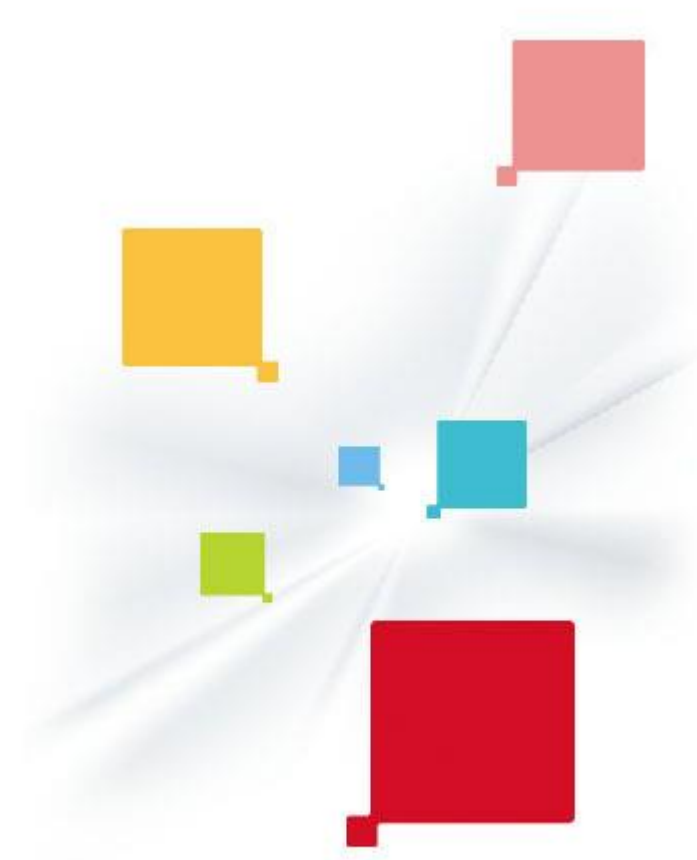


# FY2024 Q3 決算概要

2025年 2月 13日  
株式会社リコー



本資料に記載されている、リコー(以下、当社)の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。従って、実際の業績は異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠なさないようお願い致します。

実際の業績に影響を与える重要な要素には、a) 当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、b) 為替レートの変動、c) 当社の事業領域に関連して発生する急速な技術革新、および d) 激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品・サービスを当社が設計・開発・生産し続ける能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。(参照：「事業等のリスク」<https://jp.ricoh.com/IR/risk.html>)

本資料に他の会社・機関等の名称が掲載されている場合といえども、これらの会社・機関等の利用を当社が推奨するものではありません。本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

**本資料における年号の表記：4月から始まる会計年度の表記としております。**  
(例) FY2024 (2024年度)：2024年4月から2025年3月までの会計年度

# FY2024 Q3決算概要

# FY2024 Q3決算のポイント

## 業績

- Q3累計 増収減益  
Q3は増収増益。 オフィスプリンティング回復・オフィスサービス伸長は想定下回る
- リコーデジタルサービスは増収減益  
オフィスプリンティングは、海外でハード拡販が想定下振れ、ノンハードは弱含み続く  
オフィスサービスは、日本でのITサービス伸長・計画超過も、欧州一部地域で景気弱含み・案件クロージング遅延の影響  
オフィスサービス スtock売上は着実に伸長
- リコーデジタルプロダクツは生産・出荷量の増加で増収増益
- リコーグラフィックコミュニケーションズは欧米中心に好調継続、増収増益
- 企業価値向上プロジェクトは着実に進捗

## 見通し

- 営業利益 610億円 2024年11月25日 通期業績予想の修正内容から変更なし
- 企業価値向上プロジェクト、遅延案件・受注残の売上計上促進及び経費コントロールに取り組む

## 株主還元

- 2024年12月3日に立会外取引で300億円の自己株式取得実施、2025年1月31日に消却

# 連結損益計算書

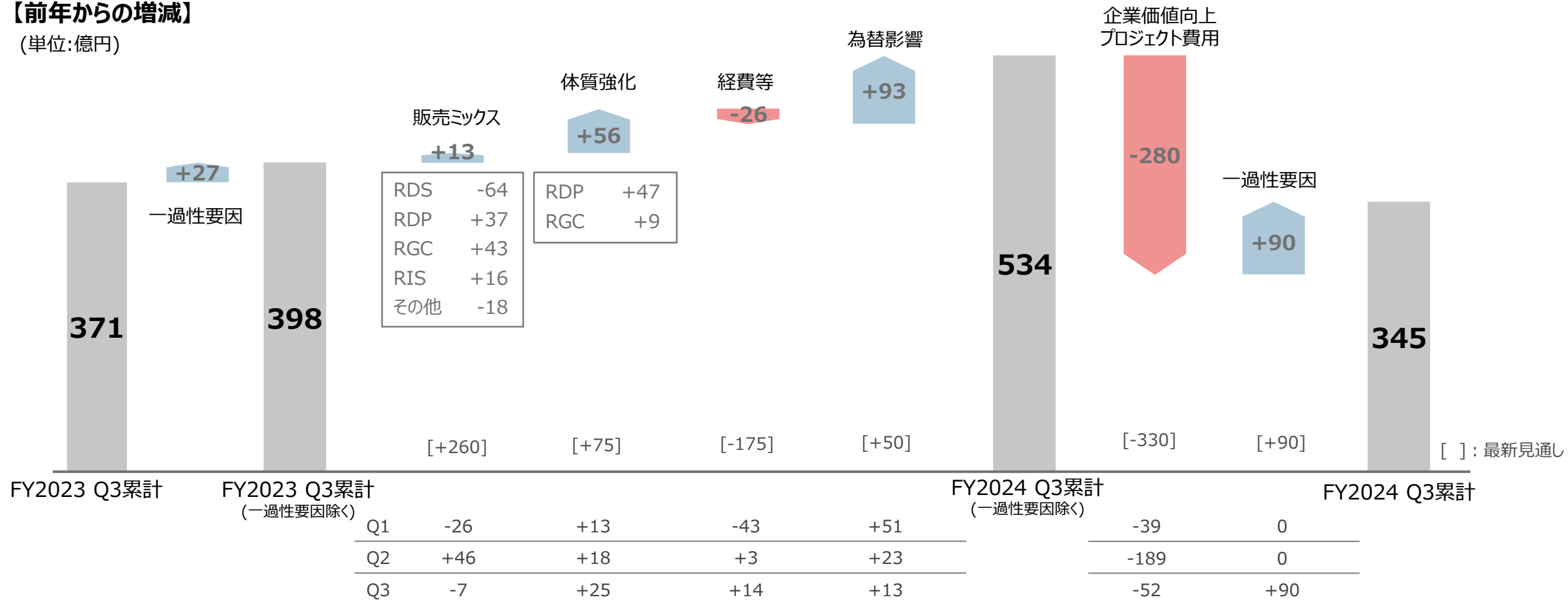
	FY2023 Q3累計	FY2024 Q3累計	前年比	
<b>売上高</b>	16,976億円	<b>18,354</b> 億円	+1,377億円	+8.1%
売上総利益	5,966億円 (35.2%)	6,409億円 (34.9%)	+443億円	+7.4%
販管費等	5,595億円 (33.0%)	6,064億円 (33.0%)	+469億円	+8.4%
<b>営業利益</b>	371億円	<b>345</b> 億円	-26億円	-7.0%
営業利益率	2.2%	1.9%	-0.3pt	-
親会社の所有者に帰属する <b>当期利益</b>	302億円	<b>278</b> 億円	-24億円	-8.0%
EPS	49.71円	47.17円	-2.54円	
期中平均 為替レート	1USDドル 117-□	143.24円 155.26円	+9.39円 +9.64円	
設備投資 (有形固定資産)	336億円	337億円	+0億円	
減価償却費 (有形固定資産)	324億円	344億円	+20億円	
研究開発投資	817億円	713億円	-103億円	

# 要因別営業利益

- ✓ 販売ミックスでは、オフィスプリンティングの海外でのハード拡販及びオフィスサービスの欧州伸長が想定未達
- ✓ 経費等は、インフレ等による増加を変動費削減とプロジェクト効果によりコントロール
- ✓ 企業価値向上プロジェクトは国内セカンドキャリア支援制度など一部前倒しで進捗、費用計上
- ✓ 中国子会社が提起した仲裁申立の仲裁判断に伴う収益認識90億円を計上（一過性要因）

## 【前年からの増減】

(単位:億円)

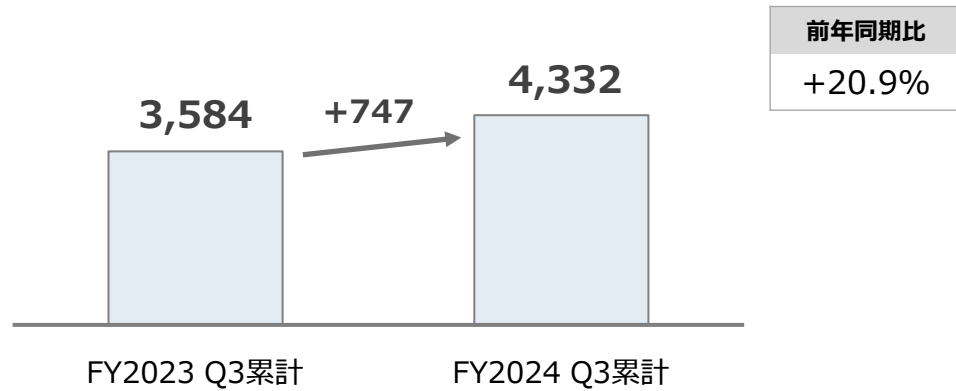


[ ]: 最新見通し

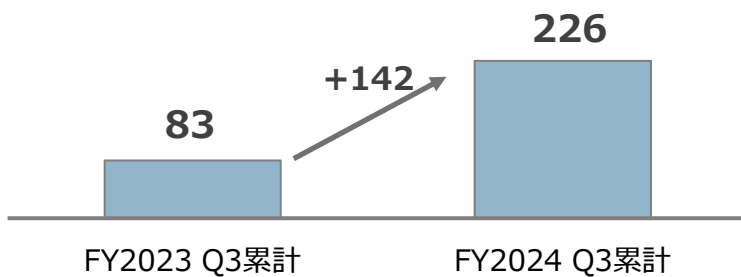
# リコーデジタルプロダクツ

生販正常化で稼働回復、製品ミックス改善及びエトリア効果により増収増益

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



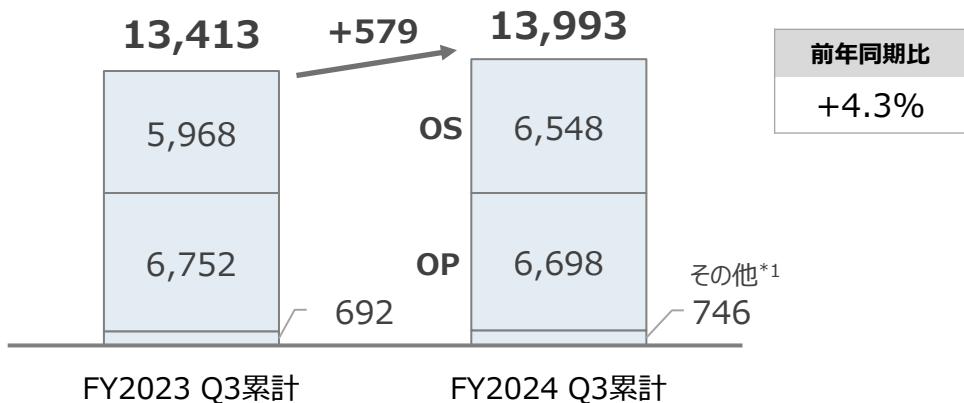
## 概況

- MFP生産量の回復、製品ミックス改善により増益
- エトリア効果は想定通りの収益貢献
- 体質強化施策は想定通り
  
- ETRIAによるシナジー創出に向けて施策推進中
  - ✓ 統合商品ロードマップを策定、共通エンジン開発着手
  - ✓ 生産体制の最適化着手、中国の一拠点を統合済
  - ✓ 共同購買による効果創出
  
- 沖電気工業株式会社が新たにエトリアに参画 P.22に詳細
  - ✓ 2025年10月1日より稼働開始予定
  - ✓ 各社のビジネスノウハウ/技術を持ち寄り、競争力の高い製品開発・スケールメリットを追求

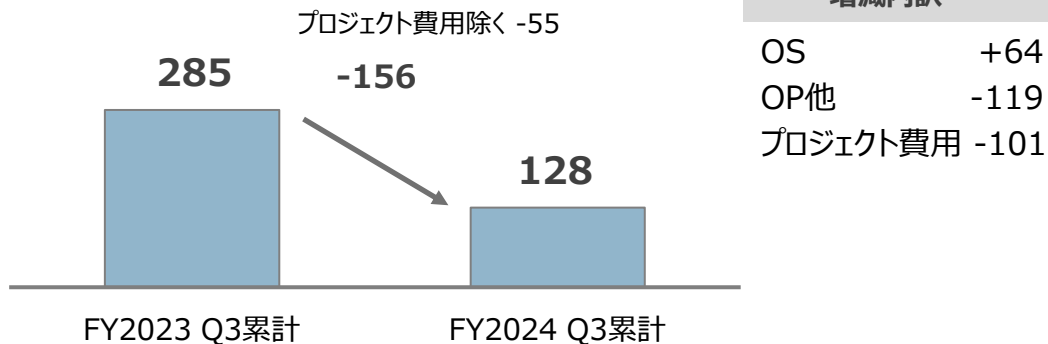
# リコーデジタルサービス

オフィスサービス ストック売上が堅調に拡大。プロジェクト費用計上等により減益

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



\*1 環境ソリューション、産業ソリューションなど

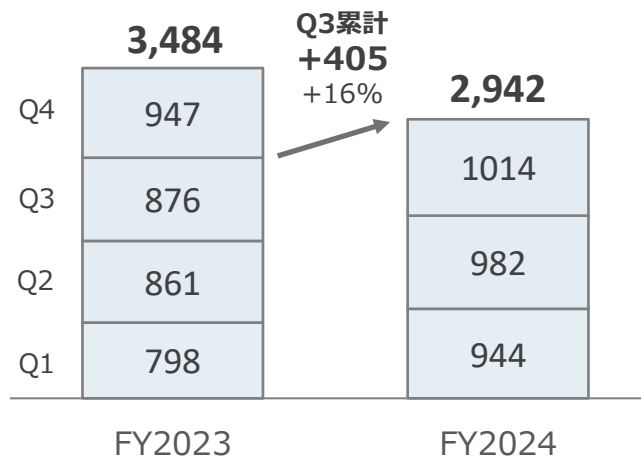
\*2 社内管理の利益に基づき試算

## 概況

### ● オフィスサービス

日本はPCリプレイスを契機に伸び率拡大  
欧州は一部地域で景気弱含みの影響のほか、  
案件クロージングが遅延  
ストック売上16%増収、利益貢献

## ストック売上高 (億円)



### ● オフィスプリンティング (販売)

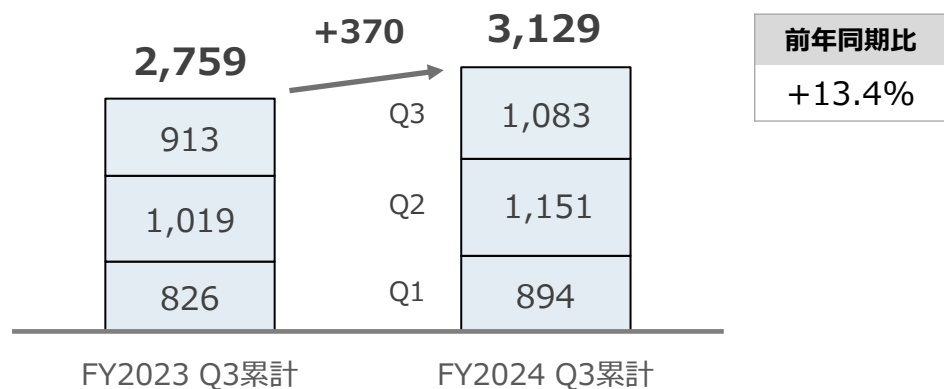
ハード： 海外で想定下回るが日本は堅調  
ノンハード： 特に欧米で弱含み継続



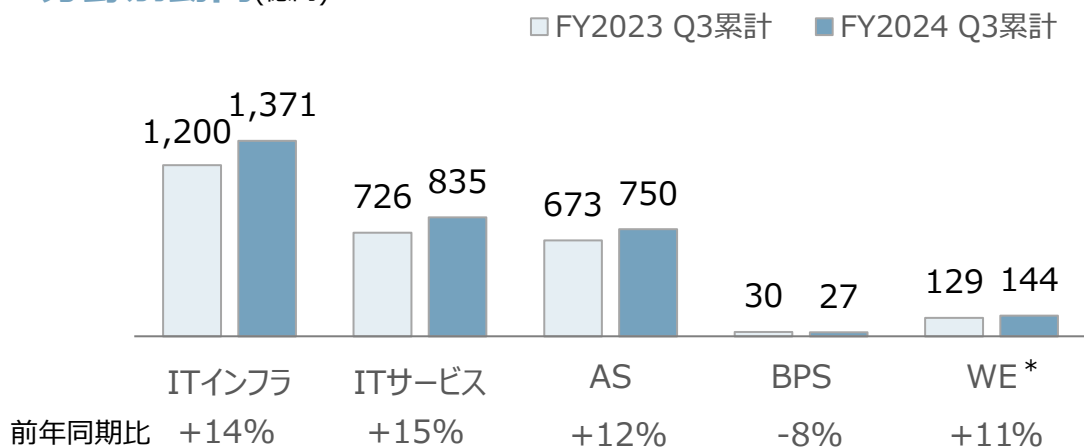
# リコーデジタルサービス オフィスサービス概況：日本

PCリプレイスを契機にITサービス・アプリケーションサービス成長、ストック拡大に貢献

## 売上高 (億円)



## 分野別動向 (億円)



\*Workplace Experience/ ワークプレイスエクスペリエンス：コミュニケーションサービスより名称変更

- ITサービス
  - ✓ スクラムアセット好調、PCリプレイスを契機に複数の大型案件獲得
  - ✓ セキュリティやテレワーク関連サービス伸長
- アプリケーションサービス (AS)
  - ✓ PCリプレイスを契機にOffice365など情報系アプリ好調
  - ✓ スクラムパッケージ好調、働き方改革や福祉介護関連などが伸長
- スtock売上は順調に拡大
  - ✓ スtock成長に繋がる重点商材を設定し拡販継続

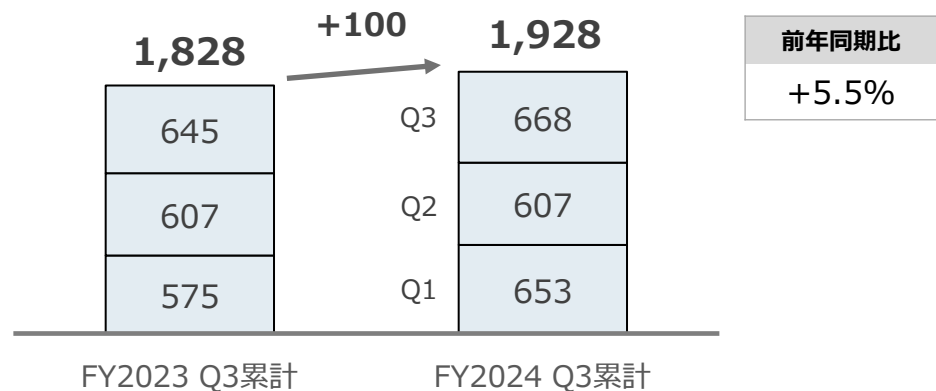
## トピック

- ✓ 業種業務に合わせた改善提案を担う「AIエバンジェリスト」300名の育成開始。「使える・使いこなせるAI」販売を強化

# リコーデジタルサービス オフィスサービス概況：欧州

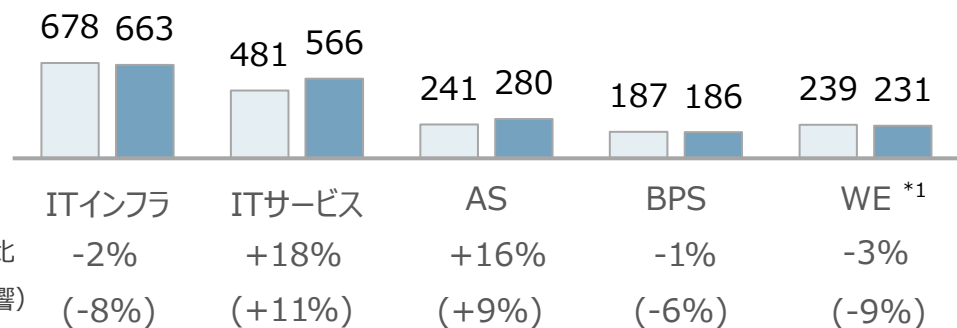
景気弱含みの影響続くなか、ITサービス・アプリケーションサービスは成長継続

## 売上高 (億円)



## 分野別動向 (億円)

□ FY2023 Q3累計 ■ FY2024 Q3累計



- ITサービス
  - ✓ 引続き伸長も、景気弱含み影響が一部大型商談にも波及
- ワークプレイスエクスペリエンス (WE)
  - ✓ 一部地域で苦戦、商談長期化
- スtock売上は順調に拡大
  - ✓ DocuWareのクラウドサービス、ITサービス拡大が牽引

## トピック

- ✓ natif.ai \*2のAI技術をグローバルで活用、シナジー最大化図る  
DocuWareと連携させた業務別AIワークフローをリリース

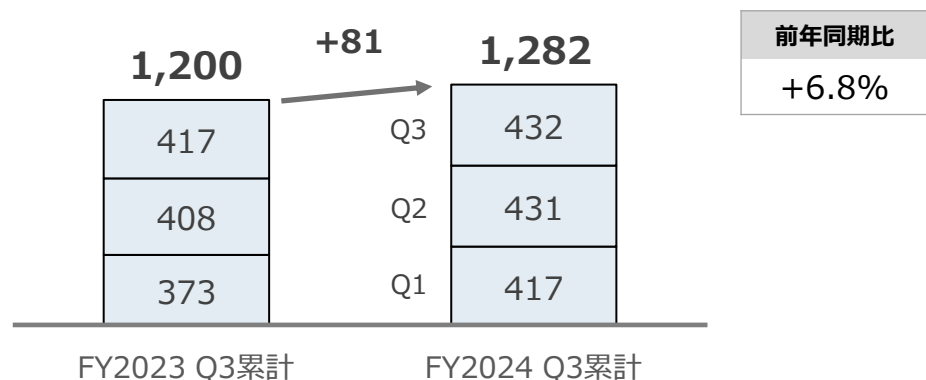
\*1 Workplace Experience/ ワークプレイスエクスペリエンス：コミュニケーションサービスより名称変更

\*2 買収企業の位置付けはP.26を参照

# リコーデジタルサービス オフィスサービス概況：米州

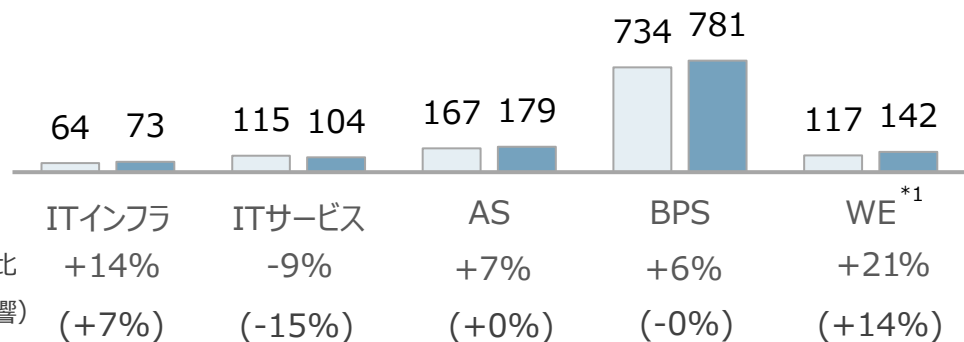
BPSは収益性改善、ワークプレイスエクスペリエンスはパイプライン構築進む

## 売上高 (億円)



## 分野別動向 (億円)

□ FY2023 Q3累計 ■ FY2024 Q3累計



- BPS
  - ✓ 業務効率化とプライシングコントロールで収益性は継続改善
- ワークプレイスエクスペリエンス (WE)
  - ✓ Cenero<sup>\*2</sup> とのシナジー進捗
  - ✓ 米州既存顧客への提案によりパイプライン構築早期の刈取り進める
- アプリケーションサービス(AS)
  - ✓ OPハード販売回復に連動した自社ドキュメント管理ソフトの売上増を狙うも伸び悩み

## トピック

- ✓ 米国専門メディア<sup>\*3</sup>にて、2年連続で世界3位のオーディオビジュアルインテグレーターにランクイン

\*1 Workplace Experience/ ワークプレイスエクスペリエンス：コミュニケーションサービスより名称変更

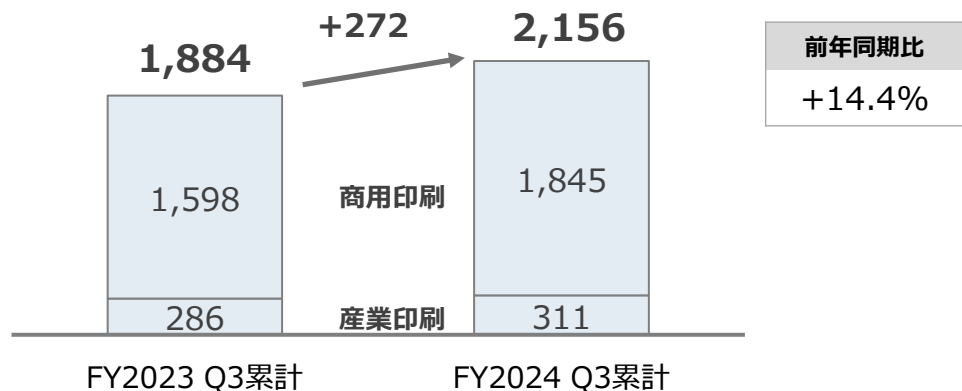
\*2 買収企業の位置付けはP.26を参照

\*3 AVシステムインテグレーター向け 専門メディア Systems Contractor News

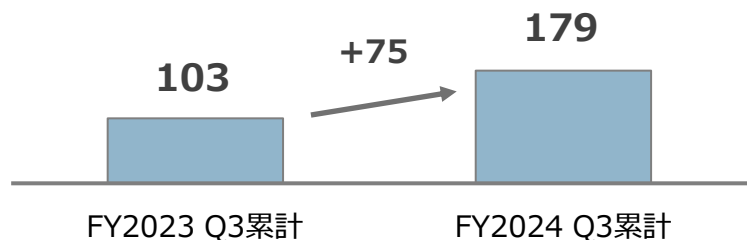
# リコーグラフィックコミュニケーションズ

増収増益、商用印刷・産業印刷ともに前年伸長、好調続く

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



## 概況

### ● 商用印刷

ハード： ProC9500/7500シリーズ (ハイエンドカラーカットシート印刷機) など新製品が好評  
drupa 2024受注案件の納入が進み欧米中心に増収

ノンハード： 欧米中心に堅調

売上高 前年同期比	FY2023				FY2024		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ハード	+11%	+17%	+4%	+7%	+32%	+18%	<b>+31%</b>
(為替影響除く)	+5%	+10%	-1%	-3%	+18%	+13%	<b>+27%</b>
ノンハード	+10%	+7%	+10%	+16%	+16%	+6%	<b>+5%</b>
(為替影響除く)	+4%	+1%	+4%	+5%	+4%	+2%	<b>+2%</b>

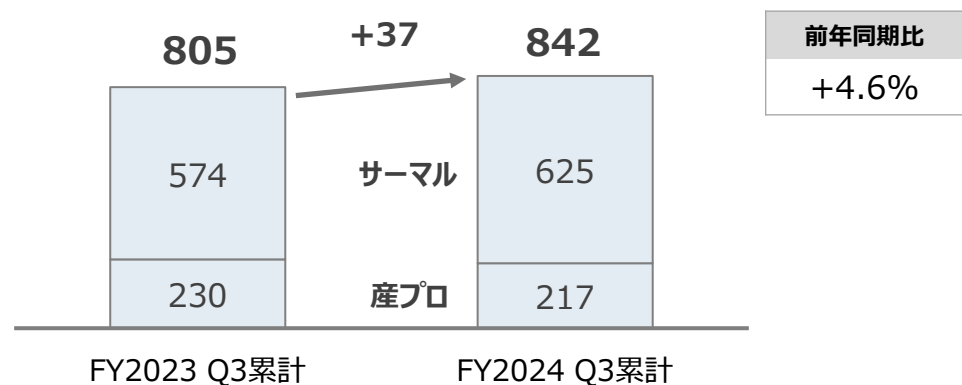
### ● 産業印刷

IJヘッド： サイングラフィック用途を中心に2桁増収継続

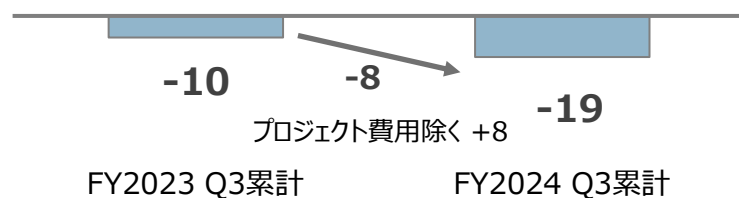
# リコーインダストリアルソリューションズ

光学事業譲渡に伴う一過性費用計上により減益

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



## 概況

- サーマル
  - ✓ 日本は増収、剥離紙レスラベルが食品用途で好調  
欧州は市場停滞と価格競争が響き、苦戦続く
  - ✓ 大手最終顧客向けサービスの拡大 及び  
ラベルレスサーマル等新規ビジネスモデルの展開等、  
拡販施策を進めるが想定より効果刈り取りに遅れ
- 産業プロダクツ
  - ✓ 光学事業譲渡 (2024年9月30日) により減収  
一過性の環境対応費用 (プロジェクト費用) を計上

# 連結財政状態計算書

総資産はエトリア設立及び為替影響により前年度末比で増加

棚卸資産は、エトリア設立、BCPによる部材確保及び洋上在庫増等により増加

## 資産の部

(単位:億円)	2024年 12月末	24/03末比 増減額
流動資産	<b>12,327</b>	+294
現金及び預金	<b>1,874</b>	+101
営業債権及びその他の債権	<b>5,195</b>	-185
その他の金融資産	<b>1,111</b>	+42
棚卸資産	<b>3,390</b>	+384
その他の流動資産	<b>754</b>	-49
非流動資産	<b>11,626</b>	+797
有形固定資産	<b>2,038</b>	+2
使用権資産	<b>727</b>	+100
のれん及び無形資産	<b>4,353</b>	+229
その他の金融資産	<b>1,832</b>	+135
その他の非流動資産	<b>2,673</b>	+328
資産合計	<b>23,953</b>	+1,091

エトリア影響  
年度末需要向け在庫形成  
洋上在庫増加

戦略投資  
(欧州買収、エトリア)

## 負債及び資本合計の部

(単位:億円)	2024年 12月末	24/03末比 増減額
流動負債	<b>9,144</b>	+351
社債及び借入金	<b>1,829</b>	+303
営業債務及びその他の債務	<b>3,048</b>	-4
リース負債	<b>242</b>	+17
その他の流動負債	<b>4,023</b>	+34
非流動負債	<b>4,124</b>	+707
社債及び借入金	<b>2,554</b>	+584
リース負債	<b>552</b>	+72
退職給付に係る負債	<b>395</b>	+22
その他の非流動負債	<b>623</b>	+27
負債合計	<b>13,269</b>	+1,058
親会社の所有者に帰属する 持分合計	<b>10,228</b>	-158
非支配持分	<b>455</b>	+191
資本合計	<b>10,684</b>	+33
負債及び資本合計	<b>23,953</b>	+1,091
有利子負債合計*	<b>4,383</b>	+888

自己株取得・消却

エトリア影響

(参考) 期末日為替レート: US\$ 1 = ¥ 158.18 (+6.77)  
EURO 1 = ¥ 164.92 (+1.68)  
(24/03末比増減)

\* 社債及び借入金の合計

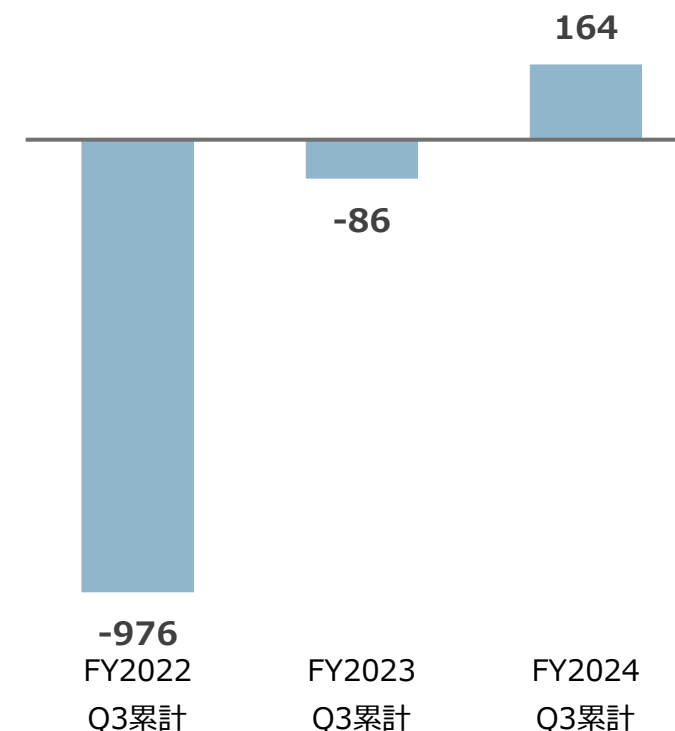
# 連結キャッシュフロー計算書

運転資本の改善等によりフリーキャッシュフロー増加

(単位:億円)	FY2023 Q3累計	FY2024 Q3累計
当期利益	301	<b>285</b>
減価償却費	801	<b>861</b>
その他の営業活動	-481	<b>-429</b>
営業活動によるキャッシュフロー	622	<b>717</b>
有形固定資産の取得及び売却	-331	<b>-335</b>
事業の買収	-142	<b>-56</b>
その他の投資活動	-234	<b>-161</b>
投資活動によるキャッシュフロー	-708	<b>-552</b>
有利子負債*の純増減	62	<b>848</b>
支払配当金	-213	<b>-220</b>
自己株式の取得	-0	<b>-524</b>
その他の財務活動	-241	<b>-257</b>
財務活動によるキャッシュフロー	-392	<b>-153</b>
換算レートの変動に伴う影響額	82	<b>51</b>
現金及び現金同等物の純増減額	-395	<b>62</b>
現金及び現金同等物期末残高	1,713	<b>1,759</b>
フリーキャッシュフロー(営業C/F+投資C/F)	-86	<b>164</b>

仲裁判断に伴う  
預り金の返還  
棚卸資産の増加

## フリーキャッシュフロー推移 (単位:億円)



# FY2024 通期見通し



## 主な変更

- 中国子会社が提起した仲裁申立の仲裁判断に伴う収益認識を反映し、営業利益610億円に修正  
(2024年11月25日発表済)
- オフィスプリンティングは、代理店向け施策、高付加価値提案含めたプライシングコントロール及びMIFマネジメント強化等により、Q4でのハード販売挽回とノンハード下げ止めを図る
- オフィスサービスは、パイプラインの売上計上を進め、年度末のPCリプレイス需要に合わせてITサービスやアプリケーションサービスの拡販を徹底
- 商用印刷は、drupa 2024での受注案件の刈り取り、ノンハード成長継続見込む
- 企業価値向上プロジェクトの各施策を着実に進める

## 株主還元

- 年間配当は38円の予定に変更なし

# FY2024 見通し <主要指標>

	FY2024 Q2時見通し	FY2024 最新見通し	前回比	FY2023 実績	FY23比
売上高	<b>25,500</b> 億円	<b>25,500</b> 億円	-	23,489億円	+8.6%
売上総利益	9,150億円	9,150億円	-	8,200億円	+11.6%
販管費等	8,630億円	8,540億円	-1.0%	7,580億円	+12.7%
営業利益	<b>520</b> 億円	<b>610</b> 億円	+17.3%	620億円	-1.6%
営業利益率	2.0%	2.4%	+0.4Pt	2.6%	-0.2pt
親会社の所有者に帰属する 当期利益	<b>380</b> 億円	<b>445</b> 億円	+17.1%	441億円	+0.7%
EPS	<b>64.78</b> 円	<b>76.04</b> 円	+11.26円	72.58円	+3.46円
ROE	<b>3.7%</b>	<b>4.4%</b>	+0.7pt	4.5%	-0.1Pt
ROIC	<b>2.8%</b>	<b>3.3%</b>	+0.5pt	3.3%	-
期中平均 為替レート*	1USドル 171-0	148.86円 160.51円	+1.86円 +1.92円	144.53円 156.74円	+6.19円 +5.69円
設備投資(有形固定資産)	500億円	500億円	-	532億円	-32億円
減価償却費(有形固定資産)	460億円	460億円	-	440億円	+19億円
研究開発投資	950億円	950億円	-	1,098億円	-148億円

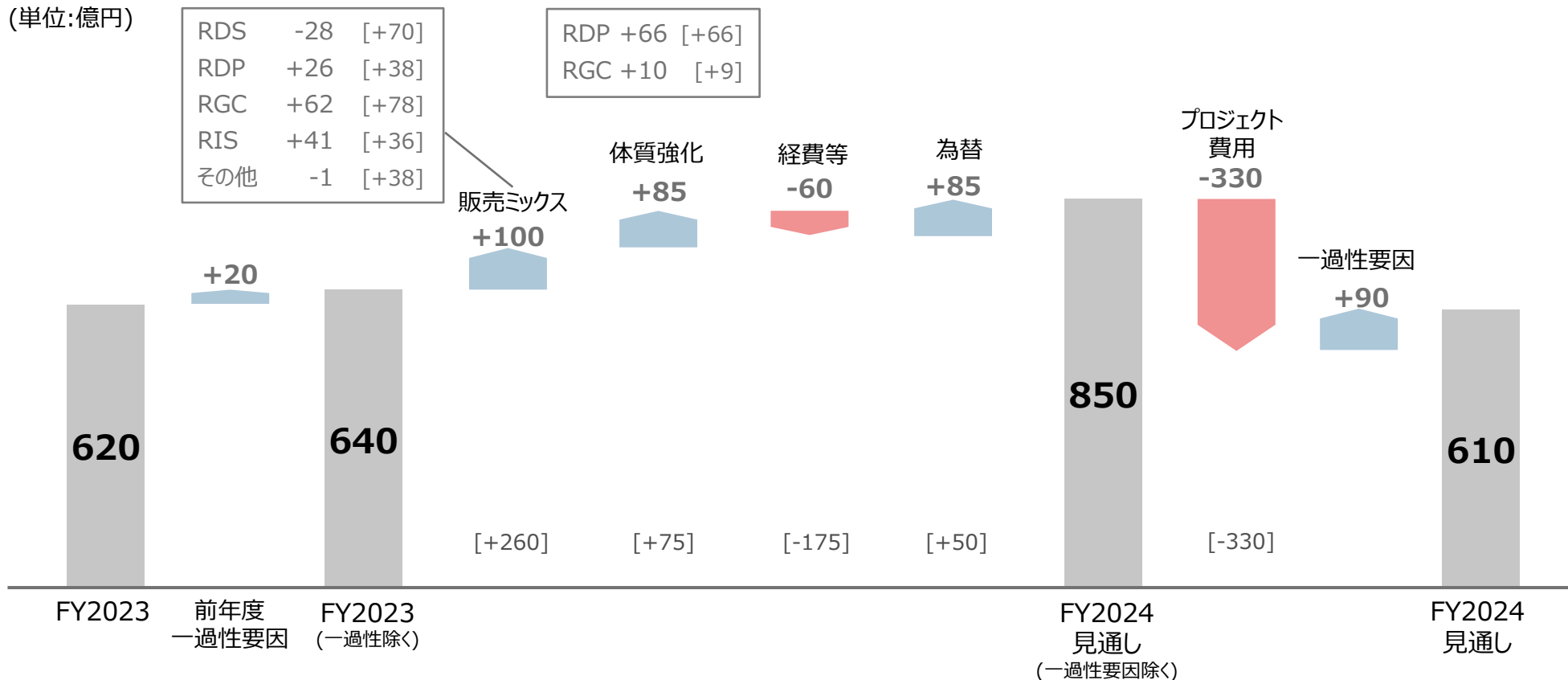
\*FY2024 Q4 想定為替レート: US\$1=¥145, EURO1=¥155

# FY2024見通し 要因別営業利益

- ✓ オフィスプリンティング・オフィスサービスの弱含みなどQ3の事業環境を踏まえ、販売ミックスを見直し
- ✓ 企業価値向上プロジェクト効果刈り取り、体質強化、プライシング及び支出のコントロールを継続
- ✓ 中国子会社が提起した仲裁申立の仲裁判断に伴う収益認識90億円を反映

## 【前年からの増減】

(単位:億円)



## 主な指標

**RDS オフィスプリンティング**  
 売上前年比 ハード 99%  
 ノンハード 97%

**RDS オフィスサービス**  
 スクラムパッケージ売上 730億円  
 (前年比 123%)  
 スクラムアセット売上 930億円  
 (前年比 111%)

参考 為替感応度\*

(億円)	売上	営業利益
USDドル	43	1
ユーロ	38	9

\*1円の変動による年間影響額

[ ] : Q2時見通し

# セグメント別 売上・営業利益

(単位：億円)

		FY2023 実績
リコーデジタルサービス	売上	18,528
	営業利益	408
リコーデジタル プロダクツ	売上	4,844
	営業利益	173
リコーグラフィック コミュニケーションズ	売上	2,621
	営業利益	154
リコーインダストリアル ソリューションズ	売上	1,135
	営業利益	-3
その他 (カメラ、新規事業他)	売上	456
	営業利益	-105
全社・消去	売上	-4,096
	営業利益	-8
合計	売上	<b>23,489</b>
	営業利益	<b>620</b>

(前回) FY2024 見通し	(最新) FY2024 見通し 2024/11/25発表	差
19,400	19,400	0
380	380	0
5,880	5,880	0
290	290	0
2,940	2,940	0
220	220	0
1,240	1,240	0
15	15	0
405	405	0
-75	-75	0
-4,365	-4,365	0
-310	-220	+90
<b>25,500</b>	<b>25,500</b>	<b>0</b>
<b>520</b>	<b>610</b>	<b>+90</b>

# 株主還元

- 総還元性向50%を目安とする方針は変わらず
- 継続的な増配と自己株式取得によるEPSの向上

## 配当

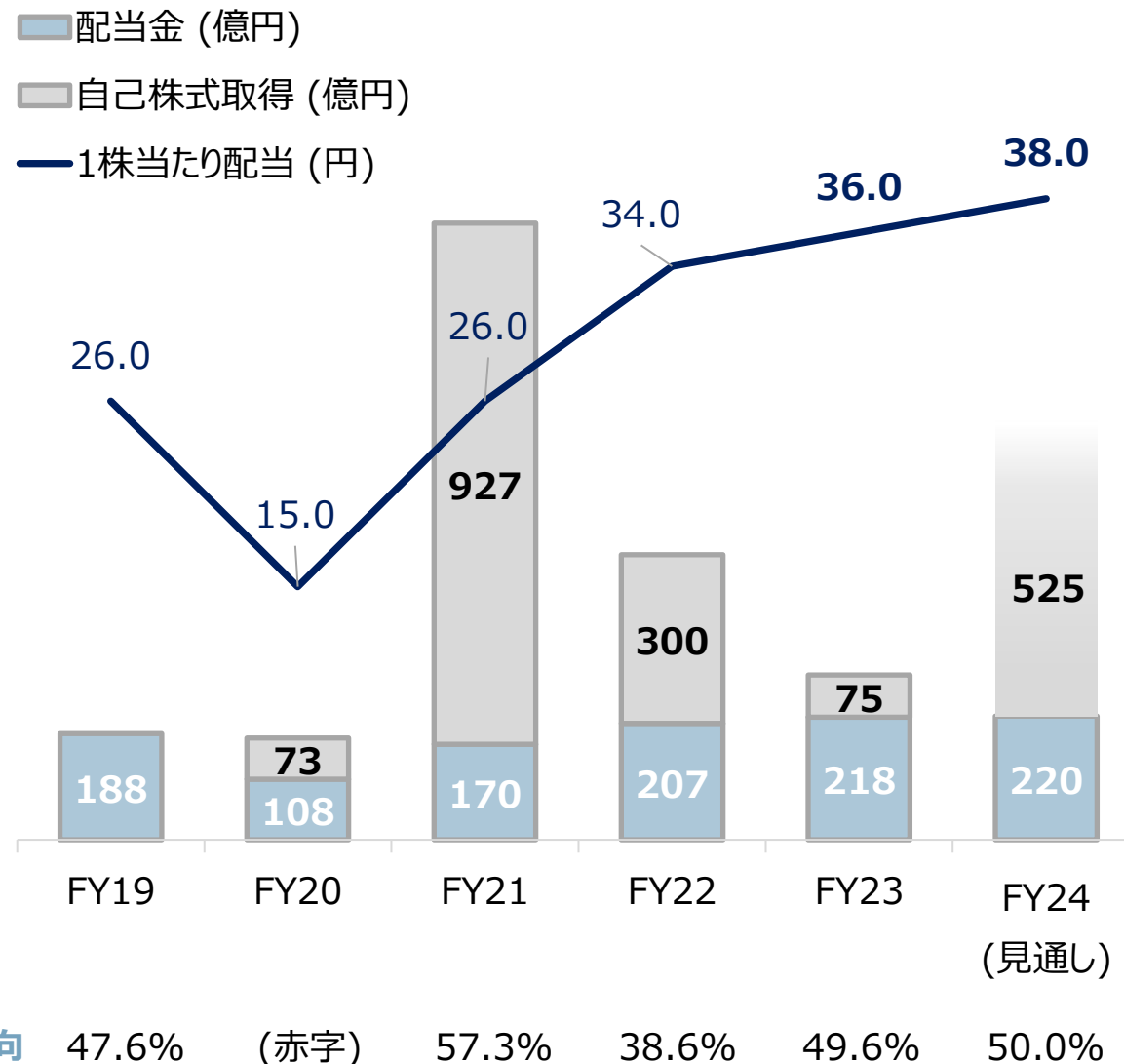
2023年度 年間36円に増配 (中間18円 期末18円)

**2024年度 年間38円に増配** (中間19円 期末19円)

## 自己株式取得

- ✓ 2024年 2月6日 300億円の取得枠を設定し、8月30日に取得終了、9月30日に消却完了
- ✓ 2024年12月2日 300億円の取得枠を設定し、12月3日に取得終了、1月31日に消却完了  
※立会外買付取引による

- 投資と資本のバランスについて、キャッシュフローアロケーションを継続検証し、機動的な資本政策を実行
  - ✓ 最適資本構成1兆円前後 (為替換算調整を除き9,000億円)の目標に対して、増加した為替調整勘定の段階的調整
  - ✓ 成長投資の方針に変わりなし



# 補足資料

# ETRIAへの沖電気工業株式会社の参画

- 2025年2月13日、複合機等の開発・生産を担う合弁会社ETRIAに沖電気工業株式会社が新たに参画することを発表
- 出資比率は、リコー：81%、東芝テック：14%、沖電気工業：5%となる
- 2025年10月1日より、3社による事業を開始予定  
沖電気工業の参画により、さらに強固な技術基盤を確立し、競争力の高い製品開発・スケールメリットを追求していく

## 沖電気工業との協業の狙い

- ✓ キーパーツ・材料等の共通活用
- ✓ レジリエントな生産体制構築：同社が保有する主要な生産拠点（タイ）の活用
- ✓ エンジン開発力の強化：LEDプリントヘッド技術活用による小型/省資源・省エネルギー型商品の開発

## 上記の結果、エトリアが実現すること

- ✓ スケールメリットを活かした調達・生産コスト低減
- ✓ 共通エンジンの更なる商品力向上
- ✓ 各社のビジネスノウハウ/技術の持ち寄りによる新しい事業領域の拡大

# 重点施策のKPI

## ROIC

営業利益	重点施策	KPI	FY2024 目標	Q3 実績	
	リコーデジタルサービス	オフィス領域のデジタルサービス拡大	オフィスサービスストック売上成長率*1 日本 スクラムシリーズ売上 パッケージアセット 欧米 オフィスサービス買収会社成長率*1	+10% 730億円 940億円 +10%	+11% 537億円 683億円 +1%
	リコーデジタルプロダクツ	オペレーショナルエクセレンスの実行	変動原価低減	66億円	47億円
	リコーグラフィックコミュニケーションズ	O2D (オフセット to デジタル) を進める戦略製品の拡販	商用印刷 販売台数伸び率 ハイエンドカラーカットシート印刷機 高速インクジェット印刷機	+25% +90%	+35% -*2
	リコーインダストリアルソリューションズ	サーマル事業 デジタルサービスビジネスの加速	大手最終顧客向けサービスなど 新規ビジネスモデル成長率*1	+50%	-*2
	本社	デジタル人材の育成 多様な人材の活躍 デジタルサービスの知財力強化	リコーデジタルスキルLv2以上のリソース (日本) エンゲージメントスコア デジタルサービス特許出願比率	3,200人 3.86 50%	3,862人*3 -*2 55%*3
	CCC	ビジネスユニット毎に施策を展開、本社SCMによる在庫・生販管理及び与信管理の強化			

実行・達成が  
収益に繋がる施策を定義

\*1 為替影響を除いた売上高の前年同期伸び率  
 \*2 通期決算発表にて実績開示予定  
 \*3 Q2時の実績。通期決算発表にて更新予定



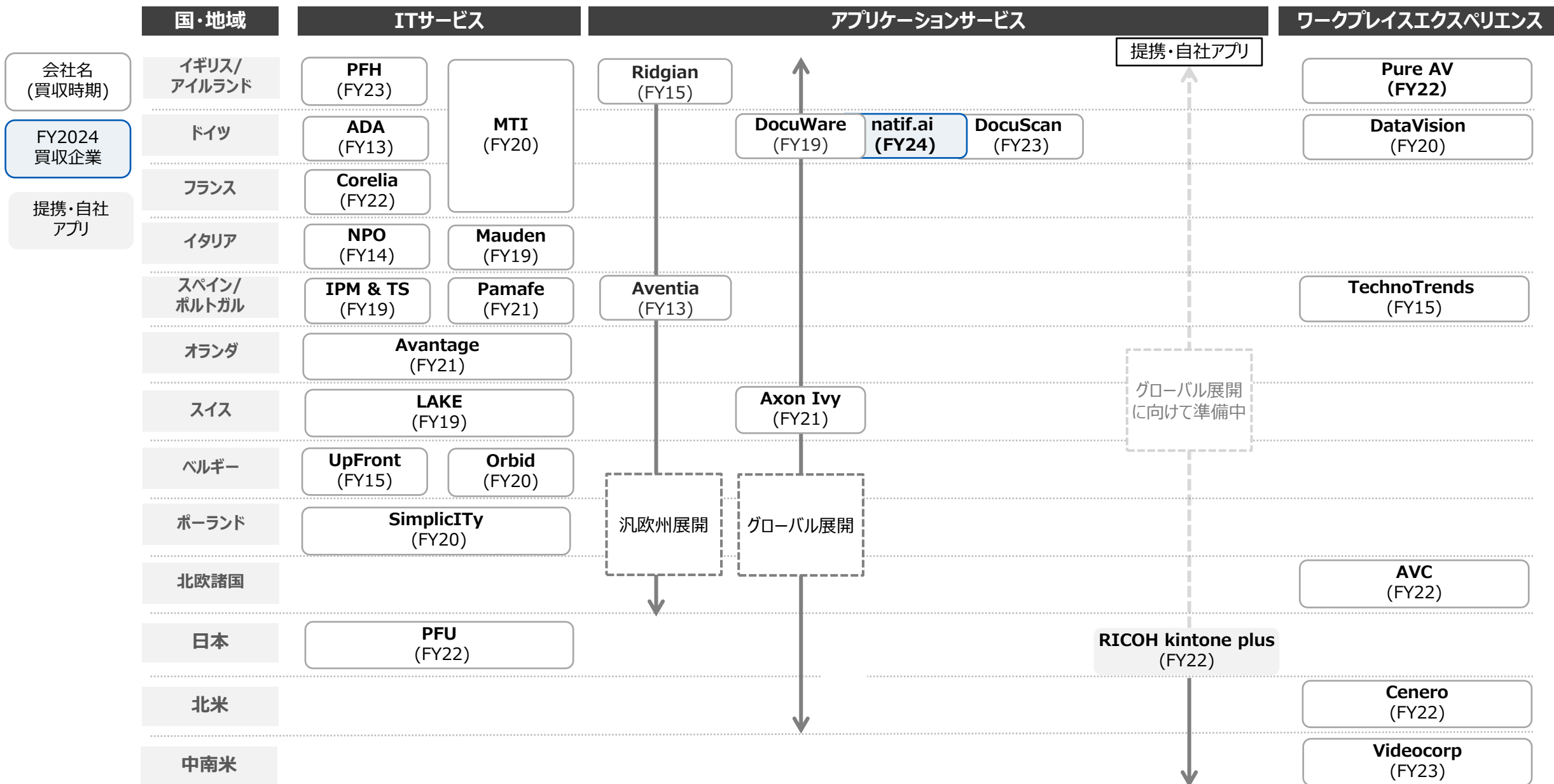
# セグメント概要

セグメント	主な事業・機能	主な製品・サービス
リコーデジタル サービス RDS	オフィスサービス (OS)	ITサービス：ITインフラ（ハード含む）、ITサービス プロセスオートメーション（PA）：アプリケーションサービス、BPS ワークプレイスエクスペリエンス（WE）：コミュニケーション環境構築・運用等
	オフィスプリンティング (OP) [販売]	ハード：MFP、プリンタ ノンハード：消耗品、サービス・サポート
	その他	各地域での独自に展開するビジネス （環境エネルギー、サービスアドバンテージ、他）
リコーデジタル プロダクツ RDP	オフィスプリンティング (OP) [開発・生産]	ハード： <u>MFP、プリンタ</u> 、 <u>コミュニケーションデバイス</u> ノンハード： <u>消耗品</u> その他： <u>スキャナ、電装ユニット</u>
リコーグラフィック コミュニケーションズ RGC	商用印刷 (CP)	ハード：プロダクションプリンタ ノンハード：消耗品、サービス・サポート
	産業印刷 (IP)	ハード：IJヘッド、産業プリンタ ノンハード：消耗品、サービス・サポート
リコーインダストリアル ソリューションズ RIS	サーマル	サーマルペーパー、熱転写リボン、ラベルレスサーマル
	産業プロダクツ	産業用光学部品、精密機器部品、産業設備

RDSへのセグメント間売上  
及び OEM  
下線については、Q2より  
エトリアで生産



# 各地域 体制強化の進捗状況



## オフィスサービス

### スクラムシリーズ実績 (億円)

FY2024 Q3累計	売上高	前年同期比
スクラムパッケージ	537	+29%
スクラムアセット	683	+31%
<b>合計</b>	<b>1,220</b>	<b>+30%</b>

FY2024 Q3累計	販売本数	前年同期比
スクラムパッケージ	<b>65,129</b>	+0%

### 分野別売上高 (億円)

	FY2023	FY2024		
	Q3累計	Q3累計	前年同期比	(為替影響除く)
オフィスサービス	5,968	6,548	<b>+10%</b>	+6%
ITインフラ	2,006	2,178	<b>+9%</b>	+6%
ITサービス	1,355	1,543	<b>+14%</b>	+11%
アプリケーションサービス	1,121	1,253	<b>+12%</b>	+9%
BPS	966	1,015	<b>+5%</b>	-1%
ワークプレイスエクスペリエンス*	519	557	<b>+7%</b>	+3%

## 各分野における主な事業内容

### ITサービス

ITインフラ：

IT環境構築やセキュリティサービス提供に伴う、ハード・ソフトの仕入れ販売

ITサービス：

IT環境構築やセキュリティサービス提供に伴う、導入・構築・運用保守

### プロセスオートメーション

アプリケーションサービス：

自社製・仕入れのアプリケーションソフトの導入・構築・運用保守

自社ソフトウェアは、DocuWareやRICOH kintone plus、

ドキュメントソリューション製品など

BPS (Business Process Services)：

顧客出力センターの受託ビジネスと、その顧客基盤を活用した新規サービス等

### ワークプレイスエクスペリエンス\*

コミュニケーション環境構築に伴う、導入・構築・運用保守、マネージドサービス

自社エッジデバイスの販売含む

## オフィスプリンティング

### ハード・ノンハード別

売上高 前年同期比	FY2023				FY2024		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ハード	+16%	+11%	+5%	-1%	-5%	+3%	<b>-2%</b>
(為替影響除く)	+10%	+5%	-1%	-10%	-14%	-1%	<b>-5%</b>
ノンハード	+3%	+1%	+4%	+6%	+4%	-1%	<b>-3%</b>
(為替影響除く)	-1%	-3%	-0%	-1%	-3%	-4%	<b>-4%</b>

### 地域別

売上高 前年同期比	FY2023				FY2024		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
日本	-0%	-1%	+1%	+3%	+1%	+1%	<b>-2%</b>
米州	+9%	+7%	+3%	+1%	-2%	-2%	<b>-4%</b>
(為替影響除く)	+3%	+3%	-1%	-10%	-14%	-6%	<b>-7%</b>
欧州	+14%	+13%	+9%	+7%	+4%	-0%	<b>-1%</b>
(為替影響除く)	+5%	-0%	-2%	-6%	-7%	-4%	<b>-4%</b>

## 商用印刷

### ハード・ノンハード別

売上高 前年同期比	FY2023				FY2024		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
ハード	+11%	+16%	+4%	+7%	+32%	+18%	<b>+31%</b>
(為替影響除く)	+5%	+10%	-1%	-3%	+18%	+13%	<b>+27%</b>
ノンハード	+9%	+7%	+10%	+16%	+16%	+6%	<b>+5%</b>
(為替影響除く)	+4%	+1%	+4%	+5%	+4%	+2%	<b>+2%</b>

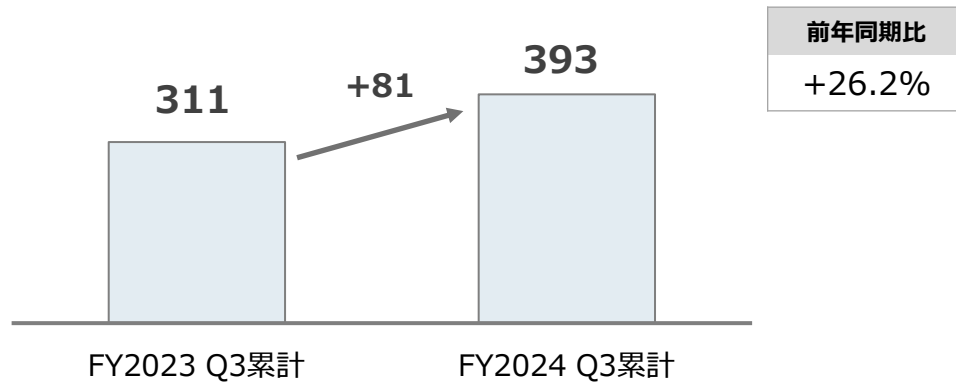
### 地域別

売上高 前年同期比	FY2023				FY2024		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
日本	-12%	-5%	+1%	-8%	+4%	-6%	<b>-8%</b>
米州	+12%	+14%	+6%	+12%	+24%	+10%	<b>+19%</b>
(為替影響除く)	+6%	+9%	+1%	+0%	+9%	+6%	<b>+15%</b>
欧州	+10%	+11%	+14%	+11%	+20%	+14%	<b>+14%</b>
(為替影響除く)	+2%	-1%	+4%	-2%	+7%	+9%	<b>+11%</b>

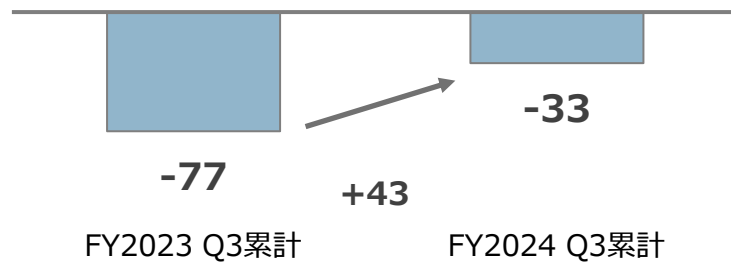
# その他

経費コントロールやカメラの好調等により、赤字幅縮小

## 売上高 (億円)



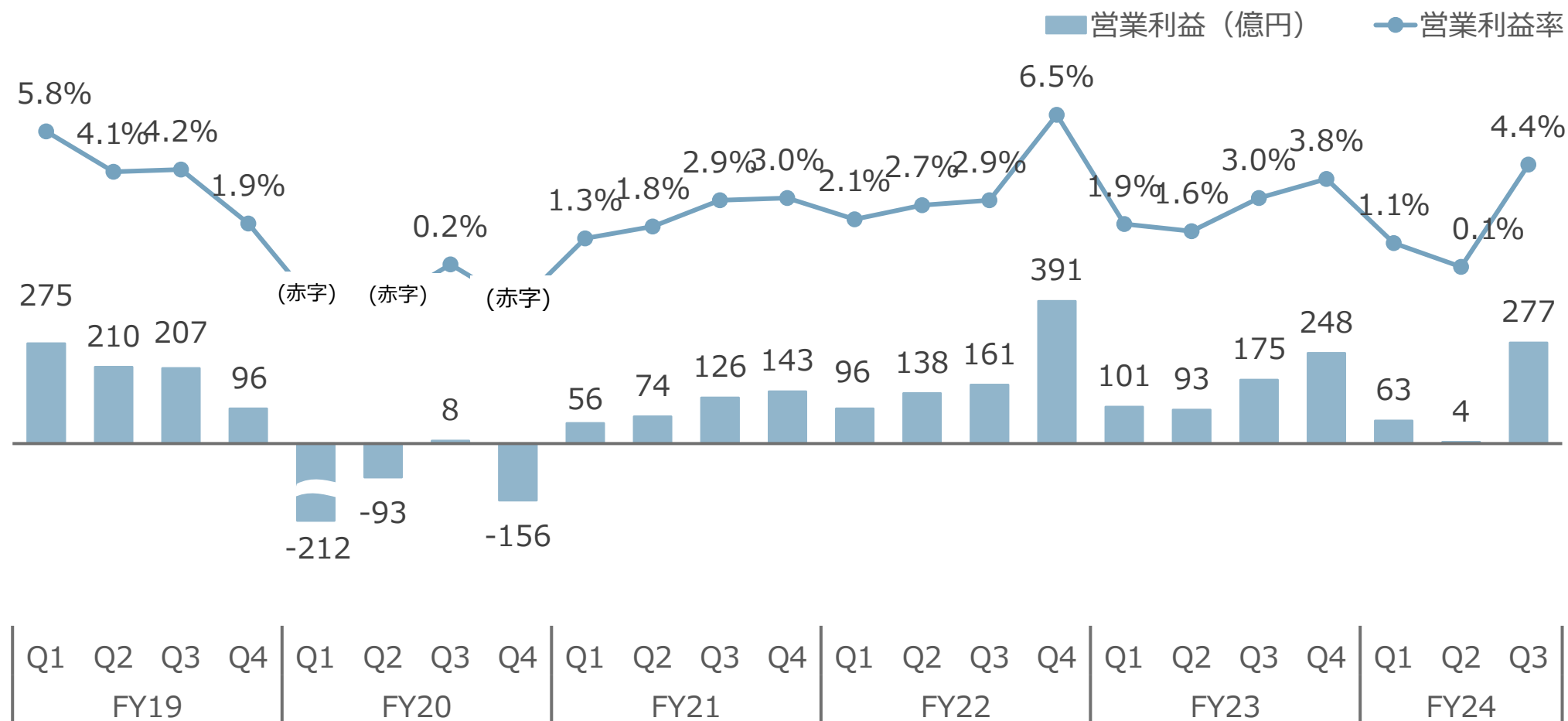
## 営業利益 (億円)



## 概況

- Smart Vision  
BtoBビジネスの強化と収益性向上を進める
- インクジェット電池  
Jetting技術を応用した、電池材料の印刷製造技術の実用性検証を開始
- PLAiR  
事業終息を決定
- カメラ  
好調継続

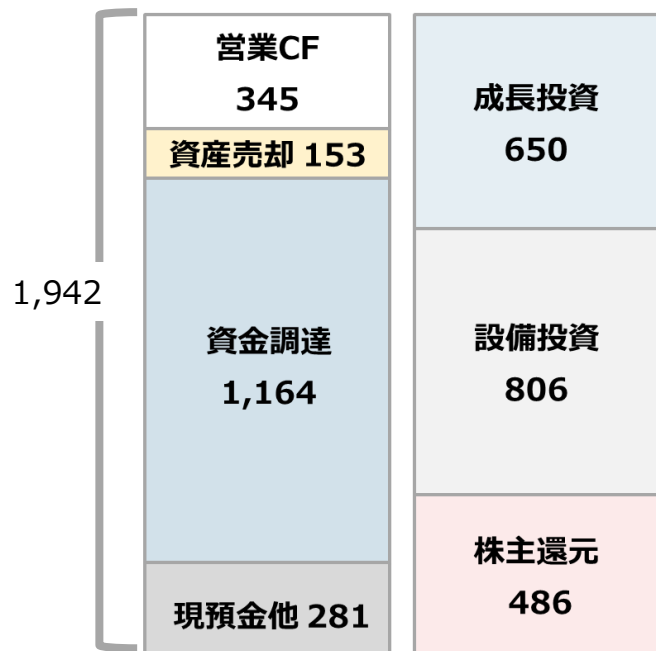
# 四半期営業利益推移



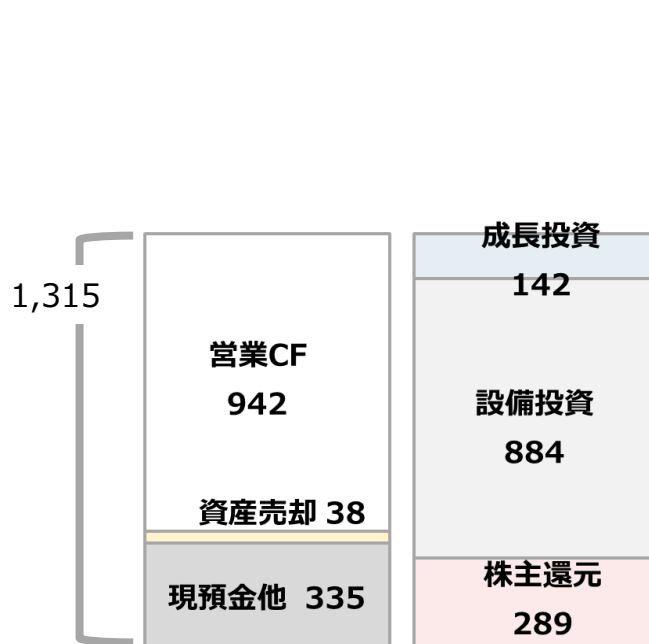
# CFアロケーション推移

※キャッシュアウトベース、単位は億円

FY2022



FY2023



FY2024見通し



- ✓ 営業CFは在庫増等により減少
- ✓ PFU等、成長投資は資金調達で賄う
- ✓ 自己株式取得(300億円)には現預金・資産売却を充当

[見通し]

- ✓ 増加した在庫の適正化による営業CF改善
- ✓ 前期並みの成長投資には現預金と資金調達で対応

[実績]

- ✓ 在庫適正化により営業CF改善・現預金適正化
- ✓ 成長投資の一部は見極め・延期
- ✓ 内部資金により、自己株式取得(75億円)

(Q2時からの変化)

- ✓ 仲裁判断による預り金返還により営業CF下方修正  
現預金充当
- ✓ 成長投資の状況・自己株式取得(525億円)を反映

FY2025 見通し

- ✓ 成長による営業CF改善
- ✓ オフィスサービス領域の成長投資には資金調達を活用
- ✓ 手元流動性及び資本構成の最適化を継続



## 主な外部評価

- 2024年 4月 EcoVadis社によるサステナビリティ調査において「ゴールド」評価を獲得
- 5月 プロダクションプリントの持続可能性がKeypoint Intelligence社の「Buyers Lab Pacesetter Award」を受賞  
～常に高い水準での取り組みや、目標達成に向けた姿勢が業界で評価～
- 6月 「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に3年連続で選出  
TIME誌が選ぶ「World's Most Sustainable Companies 2024」に選出  
Ricoh USAが「2024 Great Place To Work®」（働きがいのある会社）に認定
- 7月 GPIFが採用する6つのESG指数（国内株式）すべてに選定
- 9月 リコーのウェブサイトが「Gomez ESGサイトランキング2024」で総合第4位を獲得
- 11月 2024年度「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」で最上位評価の星5に認定  
2024年度「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」で最上位評価の星5を獲得  
～長年の継続的な評価により、「プライムシート企業」に認定～
- 12月 英フィナンシャル・タイムズ紙の「Best Employers Asia-Pacific 2025」に選出  
リコー・サイエンスキャラバンが経済産業省主催「キャリア教育アワード」大企業の部で「優秀賞」を受賞  
「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」の構成銘柄に5年連続で選定
- 2025年 1月 日本IT団体連盟「サイバーインデックス企業調査2024」で初の最高位二つ星に認定  
世界で最も持続可能な100社「2025 Global 100 Most Sustainable Corporations」で51位に選定  
～コンピューター及び周辺機器製造セクターで最高位を獲得～

## 主な取組み実績

- 2024年 5月 みずほ銀行と4回目の「Mizuho Eco Finance」融資契約を締結
- 6月 三井住友信託銀行と3回目の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の融資契約を締結  
TNFD提言に賛同し、「TNFD Adopter」に登録  
「リコーグローバルSDGsアクション2024」を実施  
～社員一人ひとりのDEIへの理解・取り組みによりSDGsの達成と事業成長の加速を目指す～
- 7月 リコージャパンが「サステナビリティレポート 2024」「SDGsコミュニケーションブック 2024」を発行
- 9月 「リコーグループ統合報告書2024」、「リコーグループ環境報告書2024」及び「リコーグループESGデータブック2024」を発行
- 10月 JCLPの「#だから1.5度」キャンペーンに賛同  
一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構（JaCER）に正会員として加入、「対話救済プラットフォーム」を通じ、  
人権課題への対応を強化
- 12月 リコーグループとREACH、2年連続ベトナムで「若者向けデジタル支援プログラム」を開始  
～就労・長期的なキャリア形成を支援し、今年度も若者の働くことへの参画を後押しする～  
社会課題解決型事業の事例を拡充・WEBサイトで公開
- 2025年 1月 A3カラー再生複合機「RICOH IM C4500F CE/C3000F CE」を発売  
～再生複合機でありながら最新の機能・セキュリティにバージョンアップ可能、環境価値と経済価値を両立～

**RICOH**

imagine. change.